

# 情報連絡員報告総括表(令和3年10月分)

三重県中小企業団体中央会  
 連絡員総数 40名  
 回答数 40名 (100%)

業界の景気動向(前年同月比)

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>(臨時・パートを含む)</small>			業界景況							
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化					
製 造 業	食料品		3	1	1	3		1	3			3	1			4		2	2		4			3	1		1	3					
	繊維工業	1	1	1		3			3			3			2	1		3			1	2		2	1			3					
	木材・木製品	1					1	1			1			1				1			1			1		1							
	紙・紙加工品			2		1	1		2		1	1		1		1		2				2		2		1		1					
	印刷		1			1			1			1				1		1			1			1			1						
	化学・ゴム																																
	窯業・土石製品	2	1			3			3			3			2	1		3			3			3			2	1					
	鉄鋼・金属	1				1			1			1			1			1			1			1		1							
	一般機器	1	1	1	2	1		2	1			3		1	2		1	2		2	1		1	2		1	1	1					
	電気機器			1			1			1						1						1			1			1					
	輸送機器		1				1		1				1			1		1				1		1			1						
その他																																	
小計		6	8	6	3	13	4	4	15	1	2	16	2	3	7	10	1	16	3	4	10	6	2	15	3	4	6	10					
非 製 造 業	卸売業	1	1			2		1	1			2		1		1		2		X				2		1		1					
	小売業		2	4		5	1	3	2	1		4	2		1	5		2	4							6			1	5			
	商店街		1			1		1				1				1			1							1			1				
	サービス業		4	1	X				5			5			4	1		4	1								5			4	1		
	建設業		3	1					1	3			2	2		2	2		3				1						4			3	1
	運輸業			1						1			1			1			1					1					1			1	
	その他	1									1			1			1						1						1			1	
小計		2	11	7		8	1	6	13	1		16	4	1	9	10		13	7				20			2	10	8					
合計		8	19	13	3	21	5	10	28	2	2	32	6	4	16	20	1	29	10	4	10	6	2	35	3	6	16	18					

## 最近の主要指標の前年同月比D I の推移

( 令和2年10月～令和3年10月 )

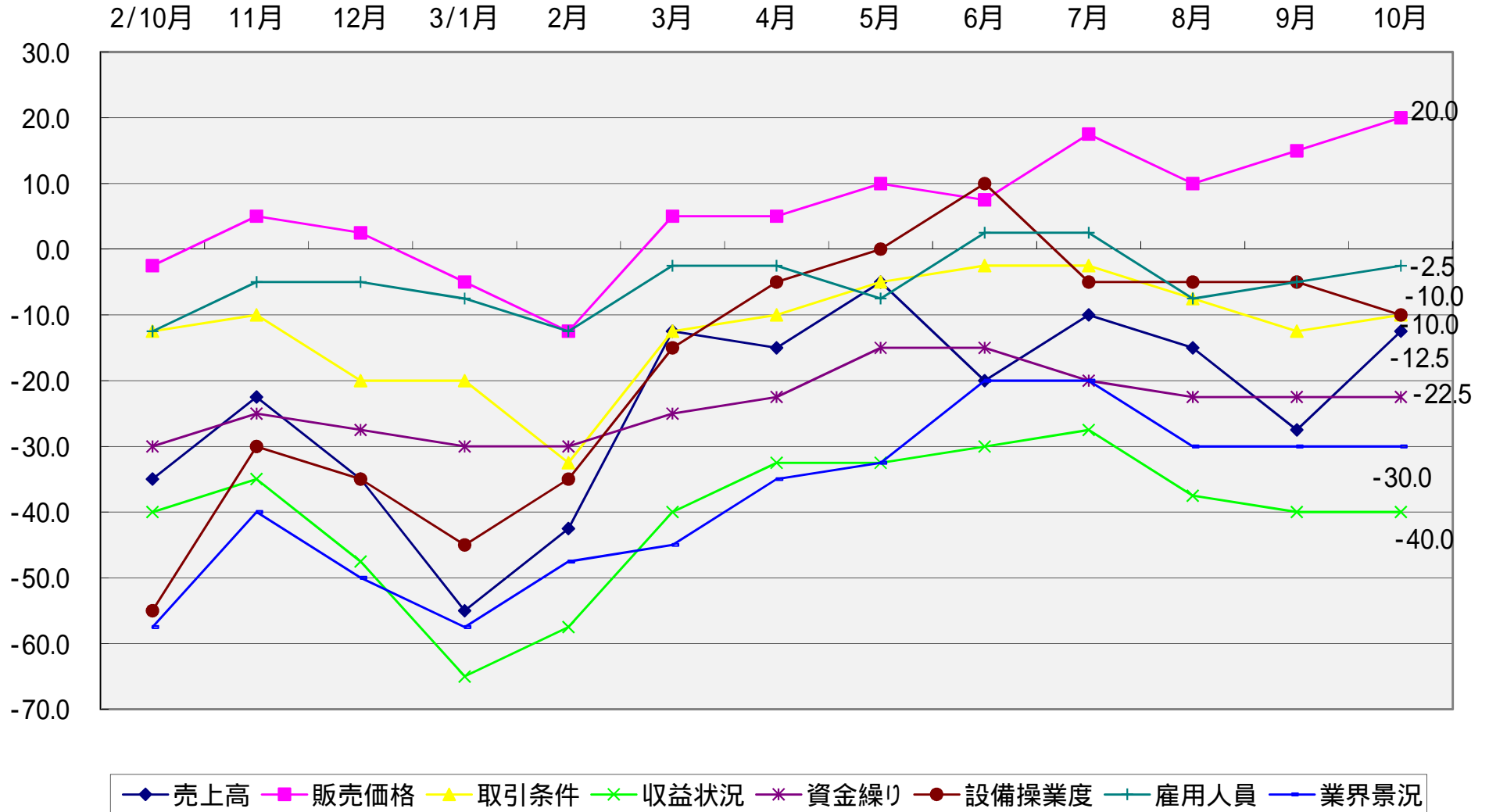
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40 名

	2/10月	11月	12月	3/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	増減
売上高	-35.0	-22.5	-35.0	-55.0	-42.5	-12.5	-15.0	-5.0	-20.0	-10.0	-15.0	-27.5	-12.5	15.0
販売価格	-2.5	5.0	2.5	-5.0	-12.5	5.0	5.0	10.0	7.5	17.5	10.0	15.0	20.0	5.0
取引条件	-12.5	-10.0	-20.0	-20.0	-32.5	-12.5	-10.0	-5.0	-2.5	-2.5	-7.5	-12.5	-10.0	2.5
収益状況	-40.0	-35.0	-47.5	-65.0	-57.5	-40.0	-32.5	-32.5	-30.0	-27.5	-37.5	-40.0	-40.0	0.0
資金繰り	-30.0	-25.0	-27.5	-30.0	-30.0	-25.0	-22.5	-15.0	-15.0	-20.0	-22.5	-22.5	-22.5	0.0
設備操業度	-55.0	-30.0	-35.0	-45.0	-35.0	-15.0	-5.0	0.0	10.0	-5.0	-5.0	-5.0	-10.0	-5.0
雇用人員	-12.5	-5.0	-5.0	-7.5	-12.5	-2.5	-2.5	-7.5	2.5	2.5	-7.5	-5.0	-2.5	2.5
業界景況	-57.5	-40.0	-50.0	-57.5	-47.5	-45.0	-35.0	-32.5	-20.0	-20.0	-30.0	-30.0	-30.0	0.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする  
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

### 最近の主要指標の前年同月比DIの推移



## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	原料用野菜は8月～9月にかけての長雨と日照不足の影響で生育不良となり、年末にかけて原料生産が懸念されている。生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いている。そのため、伝統的な漬物においても原料不足のため、代替原料による新たな商品開発の試みが行われている。また販売状況においても、コロナウイルスに関わる外出自粛の影響により、駅、土産物店等でお土産物の漬物の販売及び外食産業での需要の減少が続いていたが、コロナの感染拡大が減少してきたことから、需要の回復を期待している。
	醤油味噌	緊急事態宣言が解除になったものの、回復の兆しはあるが、まだまだ低迷している。国内消費が振るわず、輸出を盛んに農林水産省、農政局、県から進捗確認要請があり、組合員にヒアリングしたが、輸出している組合員は一部であった。しかも、味噌は褐麦の関係で輸出はなく、醤油としょうゆ加工品のみで、別団体ルートにて既に輸出を行っており、当県組合からの輸出計画には輸出がない状況を書けず、今年度の提出に難航している。
	豆腐	豆腐油揚げの原材料である大豆、食用油が高騰している。また、燃料費も高騰しており収益が悪化している。
	製麺	10月より緊急事態宣言が解除され、少しずつ動き出しているように感じられる。長期の停滞から上がってくる事を期待している。また、新しいビジネスチャンスを取り入れて、今後が楽しみになってきた。少しでも皆さんに新しいモデルを成功していけるように報告していきたい。11月19日東海ブロック研修会を開催し、皆さんと共有して会を盛り上げていくつもりである。
繊維工業	組紐	製造内容によって組合員間で売上に差が生じているようである。時短や各日の休業等が続いている組合員もいる。まだまだ販売先においても同様の事が言えそうである。
木材・木製品	木材	本年春頃より続くウッドショックにより、依然として外材が入手しづらい状況により、国産材に対する需要は旺盛で、前年同月比では原木、製品共に高値で推移している。
紙・紙加工品	紙器段ボール	先月同様、半導体供給不足で、自動車、電機関係で生産調整が行われ、段ボールケースの需要も減少が続く。会員企業の生産量は5～20%程度、前年対比マイナスである。また、原油や資源価格の高騰が続くと、今後段ボールや板紙の原紙の値上げが懸念される。
	古紙	10月期の古紙仕入量は、段ボール・約97±3%、新聞、チラシ・約95±3%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約93±8%の模様である。緊急事態宣言も解除となりコロナ感染症の感染者数も0や一桁になり、今後の回復の希望の光である。社内ワクチン接種率も調べながら適切・バランスを考えた対応・対策を続けたいと考えている。国内の第6波の心配も取り沙汰されているが、経口薬も出来たようで安心感が増している。アジア圏での感染拡大で、現在自動車や家電の部品供給が止まっているようで、部品や商品の輸入が減少し、国内の消費や生産に大きく影響を与えているようである。選挙もコロナ禍か金権かウグイス嬢の手取りか主たる要因は分からないが、盛り上がり欠け飲食関係や印刷関係の景気高揚感も現在聞いていない。最低賃金の上昇と人件費の時給換算1,500円は良い事であるが、大手の上場企業の派遣社員と共に下請け企業等の収入UP・利益還元に責任政党は政策を打って欲しいと思っている。頑張ってボーナス支給もしようと思う。資源物回収所のゴミの不法投棄は増加し古紙や古着の持ち去り行為も無くならず、年末に向けて事件・事故・火災等の注意と防止に努力しようと考えている。
印刷	印刷	印刷の主要資材であるインキ・刷版材料等が10%以上の値上げになった。しかしながら、需要の減少や顧客の節約志向等で価格転嫁が困難なケースが多い。
窯業・土石製品	コンクリート	地域的にはバラバラあるが、特に北勢地域での需要が多い状況が続いている。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は9月と比べ若干の変化があった。特に自動車関連部品に関しては10月後半より生産活動に回復の兆しが見え始め、やや増産となった。建築関連部品、ガス関連部品、電気関連部品には変化がなかった。半導体関連部品は高止まりで継続している。
一般機器	四日市	コロナウイルス感染症が収まる気配を見せている。非常事態宣言も解除され、経済活動の回復が期待される。組合員も人流を含め、客先や仕入先との交渉をより深めて、企業活動を活性化させていくつもりである。
	津市	某自動車メーカーの生産調整の影響で、受注はかなり落ちると思われていたが、年内計画は維持するとの事で、各社あまり受注を落とさなかったため、予想より売上は下がらなかった。カンバン関係のみ、受注が下がっている。また、材料の入手については、引き続き遅延が続いているが、9月より幾分良くなった感じがする。

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
	伊勢	半導体不足による自動車産業の生産減は、売上に影響している。しかし、新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかかってきたようである。やはり、ワクチン接種率のアップが効いていると思われる。緊急事態宣言が解除され、一定期間を置いた規制緩和に期待している。
	電気機器	鋼材、ステンレス材、アルミ材製品の製作用材料が、軒並み高騰しており、入荷日数も今までより長くかかるため、作業工程を立てるのが難しい。受発注については20%ダウンしている。
	輸送機器	相変わらず一部の自動車メーカーでは、海外からの部品の供給不足で生産調整を余儀なくされており、取引先の一次下請け各社も交代で休業している状況である。
非 製 造	青果	野菜前半：高値が続いた反動もあり、先週に続いて大半の野菜が昨年と同じ時期と比べて安い。特に白菜、キャベツ、ほうれん草、小松菜、人参等が値下がりしている。野菜後半：全体的に安値が続いていたが入荷量が減り、白菜、レタス、キャベツ、ほうれん草は下げ止まり、トマト、ミニトマト、ピーマンが安値で安定している。きゅうりは値上がりしている。果物前半：県内のいろいろな産地から極早生みかんの入荷が増え、味もよく価格もお手頃である。長野産の美味しいシナノスイートがピークを迎え、お手頃になってきた。山形産の洋ナシ、ラ・フランスの入荷が増えてきた。和歌山の刀根柿もピークとなり、食べごろで安い。果物後半：県内産、愛知産、静岡産と各産地の極早生みかんの入荷が増え、味もよくお買い得である。県内産の次郎柿の入荷も増えている。りんごは長野産のシナノゴールドが最盛期を迎えている。長野産のぶどうはいろいろの種類があるが、シャインマスカットが人気で味もよく、少し高いが一番である。
	自転車	2年ぶりの自転車安全整備制度の中部ブロック会が愛知県にて開催された。各県の販売動向、自転車保険加入義務化等の進捗状況が発表され、普及販売促進に向けて、努力しているようである。10月1日より自転車及び用品の配送料が改定された。1万円未満には1,000円の出荷量が課せられる等、小売業者にとっての負担が大きくなった。仕入方法を考える時代となった。地域によっては店舗型安全点検を実施するショップもあり、少しずつではあるが、お客様も来店する機会が増した気がする。商品の動きは鈍い中、伊勢市においては、電動アシスト自転車の購入者に対し（高齢者免許早期返納）、3万円の補助金が出るため、多少の動きが見られたようである。
	小売業	10月の販売も大変苦戦した。単月では前年を10%以上と大きく落とした。4～9月累計でも同じような状況になった。特に主力商品のエアコン、冷蔵庫の販売の苦戦が続いている。洗濯機も予想以上に苦戦した。オリンピック開催後の4K・8K対応のテレビの販売も一段落しつつある。また、半導体の不足により多くの商品が影響を受けているが、中でもエコキュート・ビューティートワレ・アラウーノ等が品切れになっている。コロナ禍の中、需要が大変厳しくなってきている。テレワーク・巣ごもりと新たな環境にも敏感に対応してきたが、耐久品である主力家電商品の販売が苦戦している。ただ、リフォームの取り組み店は今後期待が感じられる。コロナ禍の中で訪問活動を控えていて、催事のあり方も変わってきている。催事に工夫と手間をかける店とそうでない店の販売格差が大きくなり二極化が進んでいる。個展催事は店間の格差が大きく出る。在庫は実需とのタイム差があるが全体としては横這いの状況である。コロナ禍の中で需要の低迷が厳しさを増し、見通しは非常に厳しい状況が予想される。しかし電器店は店主の高齢化による販売ダウンが課題で、業界の中でも地域電器専門店はこの課題への対応と後継者問題が大きな問題となっている。
	石油	既知での通り、原油価格が高騰している。それに伴い、レギュラーガソリンの店頭価格は週連続で上がり、2021年10月18日時点において、全国平均価格が1L当たり164.6円（経済産業省調べ）まで上昇した。2014年10月以来の高値で、160円台は7年ぶりとなっている。原油の高騰の主たる要因は①産油国で構成するOPECプラスの会（10月4日）開催で原油生産の増産が見送られた事、②先進国を中心に新型コロナウイルスの蔓延が収まりつつある中、経済回復への期待感から原油需要が増加してきていることがあるとみられる。生産が増えない中で需要増は価格上昇を招いてしまう。また、加えてエネルギー全体に見ても、天然ガスや石炭の価格も上昇しており、資源高は石油だけに止まらない。背景には欧州を中心に脱炭素の動きが加速している事や、投機を含めた資金の流入もあり、この資源高が起こっているとされている。今後も脱炭素の動きから、石油採掘をはじめ様々なインフラ投資が停滞すれば、さらに原油高騰の長期化も懸念される。ガソリン価格が上がれば上がるほど、SSの販売量が下がってしまう。

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
業	スポーツ	知らぬ間にコロナ禍の終息がきたのであろうか。あちらこちらでスポーツの大会が行われてきた。もう少し早くこの状態であれば団体も開催できたのではないと思う。大会があれば用具もウェアも売れる。大学駅伝も行われるようである。もう少し我慢して商売を続けるようにと組合員に話した。ただ、団体がなかったため、4名の組合員が脱退していった。仕方がない事と思っている。	
	商店街	熊野市	緊急事態宣言が明け、商店街内で開催されていた朝市イベントも半年ぶりに再開された。買い物に伴うイベント自体が長らく開催されていなかったため、飲食関係については早い時間から売り切れの店舗も多く賑わいをみせた。今後の感染状況を見ながら今後も継続していく予定だ。ただそれ以外の業種については昨年同時期にはGo to トラベルキャンペーンのクーポンを利用できる店舗も多かったため、売り上げが落ちているのが現状である。今後なにかしらの対策が必要と感じる。
	サービス業	旅館	10月15日「県民割」が復活されたため、旅行会社には旅行の申込が殺到しているようであるが、日帰りが多く、宿泊はそれほどないようである。月初めの「日本旅館協会中部支部(中部4件+福井県)」の理事会での情報によると、静岡県は好調に予約が伸びているが、その他の県は徐々に増えている程度であった。県下においては、対前年比80%、対前々年比70%程度で、昨年のような「Go to トラベル」の復活がなければ、業界の回復はないだろう。
		測量	官庁からの発注量は例年並みである。大手企業との競争をするために、組合を設立したはずであったが、入札規制上、うまくいかない場合が多く、官からの随意契約がない限り、受注は難しい。
建設業	警備	昨年もこの時期には、コロナの影響で、イベント等の警備受注もなく、今期もその分はないので、売上高に変化はないが、公共事業は例年通り、発注されているので仕事量は確保されている。	
	内装工事業	10月は前月と同じく対前年同月比でマイナスとなった。今月は前年同月の売上が非常に多かったため、大幅な減少はやむを得ないと思われる。今後の予測はコロナの影響もあり、厳しい状況である。	
	水道工事業(亀山)	資材の入手が困難な状況がますます悪化している。半導体を使用する物が入手できなくなっている。また、資材価格も上昇傾向である。	
運輸業	トラック	原油価格の高騰により、燃料価格は先月に比べ、7円程大幅な値上げとなった。電子部品、デバイス関連の輸送は生産が先月に続き、大きく伸びたため、好調であった。自動車関連は、半導体不足や東南アジアでの新型コロナウイルスの流行により、部品供給が滞ったため、依然として厳しい状況が続いている。個人消費の減少傾向が続いたことから、スーパーマーケット関連や小売関連の輸送は引き続き減少となった。住宅関連の輸送は好調を維持している。	

## 行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	12月に会合を開く事を決定した。また今後ともよろしく願っています。
一般機器	四日市	新たに選ばれた人、再び選ばれた全ての議員が国の将来を考えて、嘘のない真面目な政治を行ってほしい。また、国難を防ぐようにしてほしい。
サービス業	旅館	10月25日の日本経済新聞の社説に「Go to トラベル」不要論が出ていた。長い間の引きこもりから、旅行願望が強く、わざわざ公金を使って需要を喚起する事はないとの主張であったが、およそ2年にわたる売上の落ち込みから回復するには、昨年のような「Go to トラベル」の早期復活を要望する。
	測量	組合員の緩やかな成長を望んでいる。